

# 米に関するマンスリーレポート

新潟県版 令和2年1月

## 《今月の特集1》

### 令和2年度産地交付金の活用について

#### 1 国の概算決定について

国の令和2年度予算が政府で閣議決定され、産地交付金については、次のとおり拡充や運用見直しが盛り込まれています。

- (1) 飼料用米、米粉用米の多収品種への支援の廃止と複数年契約への支援の新設
  - ・ 飼料用米及び米粉用米の多収品種に対する追加配分（12,000円/10a）を廃止し、実需者との複数年契約（3年以上）に対する追加配分（12,000円/10a）を新設
- (2) 転換作物<sup>※</sup>拡大加算の単価・算定方法・配分時期の見直し
  - ・ 単 価：10,000円/10a から 15,000円/10a に増額
  - ・ 算定方法：地域農業再生協議会ごとにみて、主食用米が減少し、転換作物の面積が令和元年度の面積より拡大した場合にその面積に応じて配分
  - ・ 配分時期：追加配分から前倒しし、拡大計画に基づき年度当初に配分

※ 転換作物：戦略作物（大豆等）、そば、なたね、新市場開拓用米、高収益作物（園芸作物）
- (3) 高収益作物等<sup>※</sup>拡大加算の単価・配分時期の見直し
  - ・ 単 価：20,000円/10a から 30,000円/10a に増額
  - ・ 算定方法：地域農業再生協議会ごとにみて、主食用米が減少し、高収益作物等の面積が令和元年度の面積より拡大した場合にその面積に応じて配分
  - ・ 配分時期：追加配分から前倒しし、拡大計画に基づき年度当初に配分

※ 高収益作物等：高収益作物（園芸作物）、新市場開拓用米、加工用米、飼料用とうもろこし
- (4) 県枠の拡大
  - ・ 県枠の割合を令和元年度の1割以上から1.5割以上に拡大
- (5) 麦、大豆等の作付拡大に取り組む産地へ産地交付金をシフト
  - ・ 平成29年度から令和元年度における転換作物の増減の状況に応じ、令和2年度の産地交付金の当初配分額を傾斜配分  
（※ 参考：新潟県の当初配分額 R元 20.2億円 ⇒ R2 18.2億円）

## 2 「転換作物拡大加算」と「高収益作物等拡大加算」の取組拡大について

平成29年度から転換作物が減少し、主食用米の作付面積が6,500ha 拡大した本県に対しては、産地交付金の当初配分額が減少しました。

地域協議会ごとに、転換作物拡大加算等に積極的に取り組み、産地交付金を追加で確保しましょう。

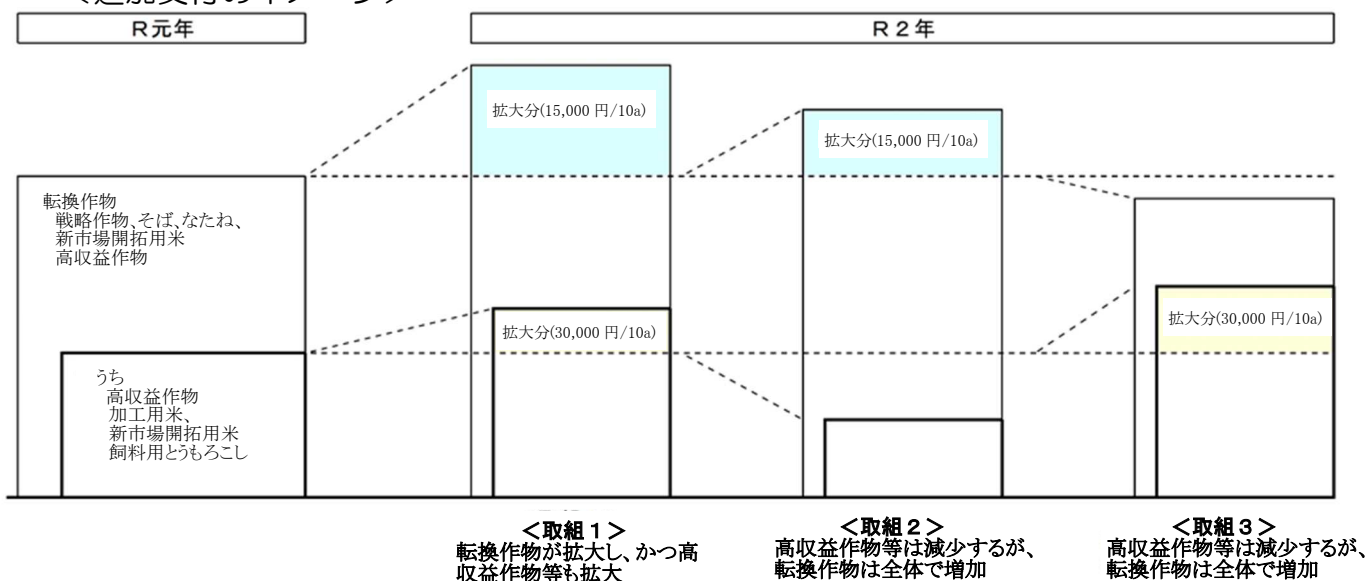
### <転換作物拡大加算の確保イメージ（試算例）>

主食用米を令和元年度より減少させ、29年産並の非主食用米等の作付けを行った場合の試算

- ① 転換作物拡大加算：7.7 億円  
(15,000 円/10a × 5,115ha<sup>※</sup>)
  - ② 高収益作物等拡大加算：3.7 億円  
(30,000 円/10a × 1,232ha<sup>※</sup>)
- 県全体では11.4億円の追加確保が可能

※ 平成29年から令和元年にかけての県全体での減少面積（園芸作物の増減は含んでいない）

### <追加交付のイメージ>



#### <共通の取組>

地域農業再生協議会ごとにみて令和2年産の主食用米について、令和元年産より減少させる必要があります。令和元年産の販売動向や、需要の裏付け(事前契約の積み上げ)を確認し、需要の裏付けのない分は非主食用米へ転換しましょう。

#### <個別の取組 1・2>

地域農業再生協議会ごとに主食用米から非主食用米へ転換するとともに、不作付地の解消など転換作物の作付拡大を図りましょう。

#### <個別の取組 3>

圃場整備の実施など、仮に転換作物の作付の減少が見込まれる場合であっても、転換作物を見直し高収益作物等への転換を図りましょう。

「転換作物拡大加算」と「高収益作物等拡大加算」に取り組む場合は、地域農業再生協議会ごとに令和2年度の「転換作物拡大計画」を2月28日まで県に提出してください。

### 3 本県での産地交付金の運用について

#### (1) 県枠の取扱い

非主食用米について需要のある品種、用途の生産と安定取引を推進するため、国の複数年契約の追加配分の対象とならない加工用米・新市場開拓用米について支援する予定。

また、加工用米については県内実需との複数年契約の取組に対して充当した上で、残余が発生した場合に県外実需との複数年契約の取組へと充当する予定。

#### (2) 地域協議会への配分

前年の非主食用米等の作付面積シェアや前年度の当初産地交付金配分シェアで配分した上で、当年の麦・大豆・そば・高収益作物の作付面積の前年度からの増加面積に応じて10aあたり20,000円を配分予定。(当年の低コスト等の取組目標シェアの5億円は廃止)

#### 令和2年度の国から県への産地交付金の配額の活用・配分方針(案)

		R元配分算定項目	R元配分額	R元見込み額	R2の取扱い(案)	R2配分額(案)
当初配分	県枠での用途設定	加工用米・新市場開拓用米・米粉用米の多収性品種の取組	1.5億円	2.5億円 (国留保充当)	国が多収品種への支援を廃止したため廃止	-
		加工用米・新市場開拓用米・米粉用米の多収性品種での複数年契約の取組	0.5億円	0.6億円 (国留保充当)	多収性品種で複数年契約を締結した取組のみ継続支援	1.4億円
		-	-	-	加工用米、新市場開拓用米の複数年契約の取組	2.2億円
		小計	2.0億円	3.1億円 (要申請調整)	小計	3.6億円
	地域への配分	前年の非主食用米等の作付面積シェア	5.5億円	5.5億円	【継続】	5.5億円
		前年度の当初産地交付金配分額シェア	7.7億円	7.7億円	【継続】	7.7億円
		当年の低コスト等の取組目標面積シェア	5.0億円	5.0億円	【廃止】	-
		-	-	-	当年の麦・大豆・そば・高収益作物の作付面積の前年度からの増加面積に応じ配分(20,000円/10a)	1.4億円
		小計	18.2億円	18.2億円	小計	14.6億円
	計		20.2億円	21.3億円	計	18.2億円
国留保額の配分	県枠の所要額に充当し、残額を当年の非主食用米の取組面積シェアで地域に配分	1.1億円	- (県枠に充当)	加工用米、新市場開拓用米の複数年契約の取組	未定 (1億円程度：α)	
国加算分	高収益作物等拡大加算(追加配分)	0.1億円	0.1億円	転換作物拡大加算及び高収益作物等拡大加算	未定 (β)	
合計		21.4億円	21.4億円	合計	18.2+α+β 億円	

※ そば、なたね等の取組実績に応じた追加配分は、地域の取組状況に応じて国から別途配分

#### 県枠の支援内容

取組内容	対象作物	考え方	支援単価
【新規】 複数年契約の取組	加工用米、 新市場開拓用米	実需に対し需要に応じた品種等を安定供給するため、実需と複数年契約を締結した取組に対し支援 なお、加工用米については、県内実需との契約を優先的に支援	12,000 円/10a
【継続】 多収性品種の複数年契約の取組	加工用米、 新市場開拓用米、 米粉用米	米関連産業からの需要のある加工用米等について、多収性品種での所得確保が継続的な取組となるよう、複数年契約に対し支援 注 令和元年度に契約締結したものを対象(R3までの経過措置)	12,000 円/10a  (R1: 5,000 円/10a)

※ 国の予算成立まで変更の可能性があることに留意

## 《今月の特集2》

### 令和2年産の需給適正化に向けた取組について

全国で需要が年間10万トン減少している中、本県ではこの2年間で主食用米の生産が6,500ha拡大しています。

需要に応じた新潟米の生産を進めるため、県農業再生協議会と地域農業再生協議会が連携し、認定方針作成者の適正生産の取組を支援します。

#### ＜需給適正化に向けた役割発揮＞

##### ① 認定方針作成者

需要に応じた米の生産・販売の推進主体として、複数年・播種前等の事前契約による需要の積み上げを進めるとともに、農業者が経営判断に資する情報を提供し、新潟米のブランド力強化や米価下落等のリスク対策として戦略作物等を推進する。

##### ② 県・地域農業再生協議会

需要に応じた米の生産が図られるよう、認定方針作成者の活動支援及び需要の裏付けの精査を行うとともに、産地交付金の効果的活用も含め農業者が取り組みやすい環境を整備する。(※ 転換作物拡大加算及び高収益作物等拡大加算の積極的活用)

#### ＜役割を踏まえた取組＞

- 1 認定方針作成者への事前・複数年契約の状況把握  
(1・3・4月 県農業再生協議会)
- 2 令和2年産米の需給適正化・非主食用米等への生産誘導の取組に関する意見交換  
(2・4・5月 県農業再生協議会、地域農業再生協議会、認定方針作成者)
- 3 認定方針作成者の需要の精査及び需要の裏付けのない米穀の非主食用米等への誘導  
(2・4・5月 地域農業再生協議会、認定方針作成者)
- 4 県の情報提供対策の拡充
  - 新潟県版マンスリーレポート  
地域農業再生協議会や認定方針作成者をターゲットにD I 調査結果や非主食用米の需要動向等を拡充して掲載
  - 令和2年産米に係る作付動向調査 (D I 調査)  
隔月で実施。品種別作付見通し等に加え、主食用米の需給動向や価格水準の項目を追加
  - 地域の取組事例集の発行  
県内の先進的な取組を波及させるため、令和元年度の取組をとりまとめた「新たな米政策における地域の取組事例集(令和元年度)」を発行

## 《今月の特集3》

### 令和2年産米の作付動向等に関する調査結果（DI）

#### 調査概要

- 調査方法：郵送・電子メールにより調査票を送付し、回収
- 調査期間：令和元年12月19日（木）～2年1月10日（金）
- 回答状況：165者に送付し、31者が回答（JA16、その他15）

#### 概況

##### 1 令和2年産米の作付意向

###### （1）主食用米

コシヒカリ・ゆきん子舞・その他うるち・もち米は増加傾向、こしいぶき・つきあかり・酒米が前年並み、あきだわらが減少傾向となっています。

###### （2）非主食用米

加工用米・米粉用米・新市場開拓用米は増加傾向、飼料用米は減少傾向、備蓄米は前年並みとなっています。

##### 2 令和元年産米の集荷・販売状況

うるち品種の集荷状況は前年より概ね順調とするのに比べ、販売状況はやや遅れているとの感触。

#### 令和2年産米の生産に向けて

令和元年産の作付状況を見ると、主食用米は前年より2,100ha増加する一方で、加工用米等の非主食用米は大幅に減少しており、県内実需者の需要に十分に答えきれていません。

認定方針作成者におかれては、**主食用米については事前契約により確実な需要を積み上げる**とともに、**非主食用米については需要の見込まれる加工用米等への生産誘導を推進する**など、新潟米のブランド力強化や価格の安定化に取り組みましょう。

## 調査結果

## 1 令和2年産米の作付見込み

## (1) 主食用米

品種	D I	説明
コシヒカリ	55.8	「維持」70%、「大きく増やす」及び「やや増やす」27%、「大きく減らす」3%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
こしいぶき	50.0	「維持」72%、「やや減らす」16%、「大きく増やす」及び「やや増やす」12%となっており、全体では元年産並みの傾向
ゆきん子舞	54.7	「維持」69%、「大きく増やす」及び「やや増やす」25%、「大きく減らす」6%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
あきだわら	44.6	「維持」71%、「やや減らす」14%、「大きく減らす」7%、「やや増やす」7%となっており、全体では元年産並み～やや減少の傾向
つきあかり	50.0	「維持」59%、「やや減らす」及び「大きく減らす」23%、「大きく増やす」及び「やや増やす」18%となっており、全体では元年産並みの傾向
その他うるち	60.2	「維持」50%、「大きく増やす」及び「やや増やす」36%、「大きく減らす」14%となっており、全体ではやや増加の傾向
もち米	57.3	「維持」63%、「大きく増やす」及び「やや増やす」33%、「大きく減らす」4%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
酒米	50.0	「維持」82%、「やや減らす」及び「大きく減らす」12%、「やや増やす」6%となっており、全体では元年産並みの傾向

## (2) 非主食用米

品種	D I	説明
加工用米	57.1	「維持」71%、「大きく増やす」及び「やや増やす」25%、「やや減らす」4%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
米粉用米	56.7	「維持」80%、「やや増やす」13%、「大きく増やす」7%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
新市場 開拓用米	56.3	「維持」69%、「大きく増やす」及び「やや増やす」25%、「やや減らす」6%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向
飼料用米	33.3	「維持」58%、「大きく減らす」25%、「やや減らす」17%となっており、全体では減少の傾向
備蓄米	50.0	「維持」81%、「やや増やす」13%、「大きく減らす」6%となっており、全体では元年産並み～やや増加の傾向

## 2 令和元年産米の集荷・販売状況

品種	集荷状況 (DI)	販売状況 (DI)
コシヒカリ	61.5	54.2
こしいぶき	62.5	59.3
ゆきん子舞	65.0	55.6
あきだわら	51.7	56.7
つきあかり	66.2	56.9
その他うるち	63.9	56.0
もち米	53.6	58.7
酒造用米	51.5	52.6

# 新潟米の販売状況

## 概況

元年産の新潟米については、作付や作柄の影響等により民間在庫はやや増加し、販売比率は前年を下回っている。

## 販売比率

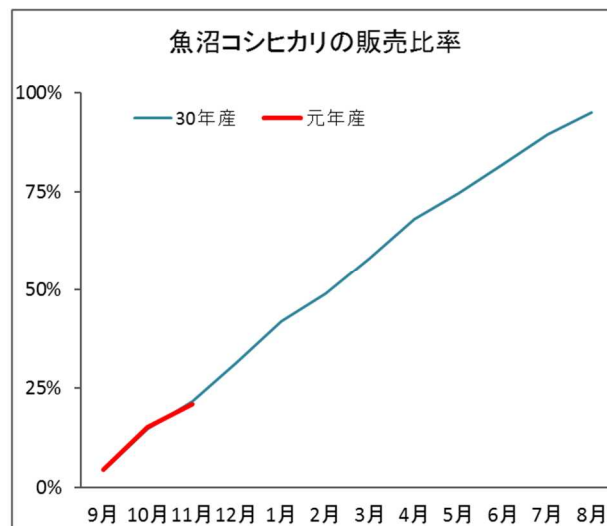
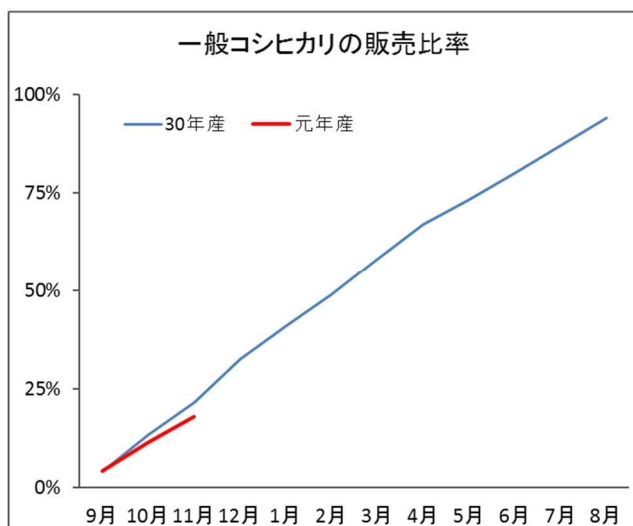
元年産米の販売比率は、いずれのコシヒカリにおいても前年産を下回り、販売比率（出荷進度）は緩やかになっている。

### (1) 一般コシヒカリ

11月時点の元年産一般コシヒカリの販売比率は、前年比4ポイント減の18%となり、2か月連続で前年を下回って推移している。

### (2) 魚沼コシヒカリ

11月時点の元年産魚沼コシヒカリの販売比率は、前年比1ポイント減の21%となり、2年振りに前年を下回って推移している。



## 販売比率の推移

産地・年産		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般コシヒカリ	29年産	4%	10%	17%	25%	31%	39%	48%	57%	67%	76%	86%	94%
	30年産	4%	13%	22%	33%	41%	49%	58%	67%	73%	80%	87%	94%
	元年産	4%	12%	18%									
魚沼コシヒカリ	29年産	4%	15%	22%	32%	38%	44%	51%	60%	67%	75%	85%	93%
	30年産	4%	15%	22%	31%	42%	49%	58%	68%	75%	82%	89%	95%
	元年産	5%	15%	21%									
岩船コシヒカリ	29年産	2%	13%	21%	28%	35%	43%	53%	62%	71%	78%	86%	95%
	30年産	1%	14%	23%	31%	36%	45%	54%	67%	74%	80%	89%	98%
	元年産	2%	11%	16%									
佐渡コシヒカリ	29年産	3%	14%	21%	29%	38%	44%	52%	60%	69%	76%	86%	96%
	30年産	2%	18%	27%	36%	46%	52%	60%	67%	76%	81%	88%	94%
	元年産	3%	16%	22%									

(資料)農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)平成29年産は、各月末時点の販売数量を翌年8月末の集荷量で除して算出。

30年産12月以前は国による比率算出が公表されなかったため、直近月の集荷量で除して算出。

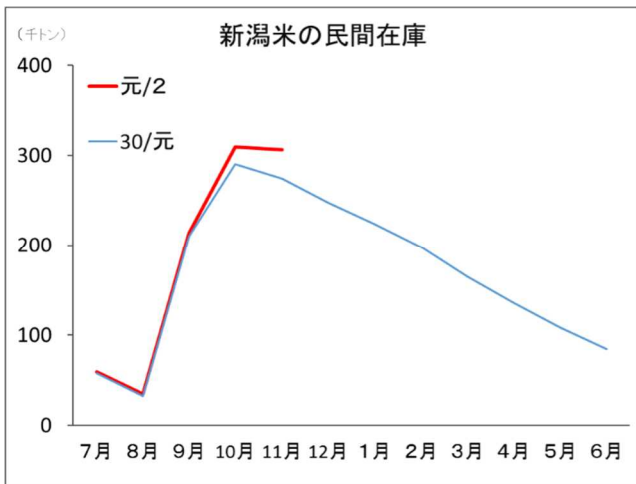
元年産は各月末時点の販売数量を直近月の集荷量で除して算出しているため、今後集荷量の増加に伴い比率が変動する場合がある。



在庫状況

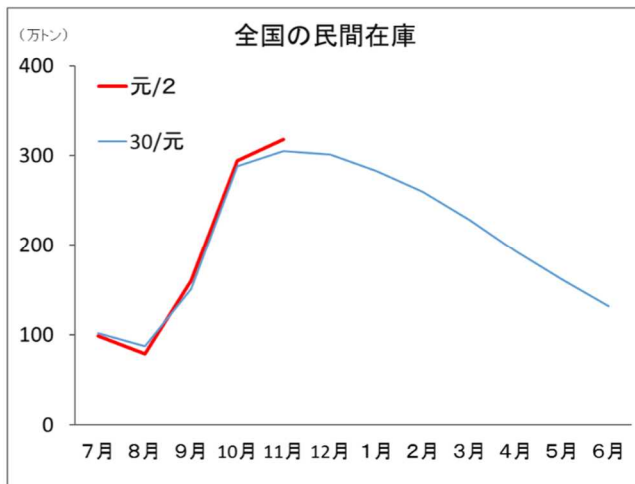
(1)新潟米

11月時点の新潟米の民間在庫(うるち米)は、前年比11.3%増の306千トンとなり、前年を5か月連続で上回った。



(2)全国

11月時点の全国の民間在庫(うるち米)は、前年比4.3%増の318万トンとなり、前年を3か月連続で上回った。



民間在庫の推移(うるち米)

(単位:新潟米は玄米千トン、全国は玄米万トン)

		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
新潟米	29/30	94	61	200	307	298	266	239	209	179	147	116	88	
	29年産米	0	0	160	269	265	239	218	192	164	136	107	82	
	1年古米(28年産)	89	59	39	38	32	26	21	16	15	11	9	6	
	30/元	58	32	210	290	275	248	224	198	165	136	108	85	
	30年産米	0	1	194	276	264	241	219	194	163	134	107	84	
	1年古米(29年産)	53	29	15	13	9	6	4	3	2	1	1	1	
	元/2	59	35	214	309	306								
	元年産米	0	1	194	293	294								
	1年古米(30年産)	58	34	19	16	12								
全国	29/30	108	88	155	283	315	312	288	263	234	201	167	134	
	29年産米	1	15	104	241	282	288	270	249	223	192	160	129	
	1年古米(28年産)	103	71	48	38	29	21	14	11	8	6	5	4	
	30/元	102	87	151	288	305	301	283	260	228	193	162	132	
	30年産米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	126	
	1年古米(29年産)	97	66	45	37	28	20	16	12	9	7	5	4	
	元/2	99	79	160	294	318								
	元年産米	1	13	115	255	285								
	1年古米(30年産)	95	66	43	34	25								

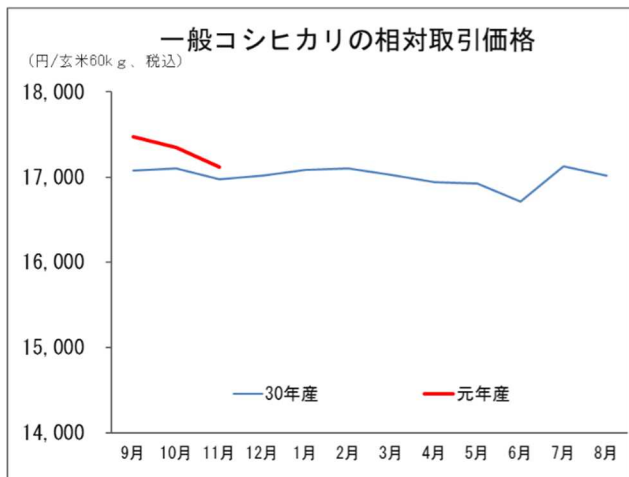
資料：農林水産省「米に関するマンスリーレポート」



相対取引価格

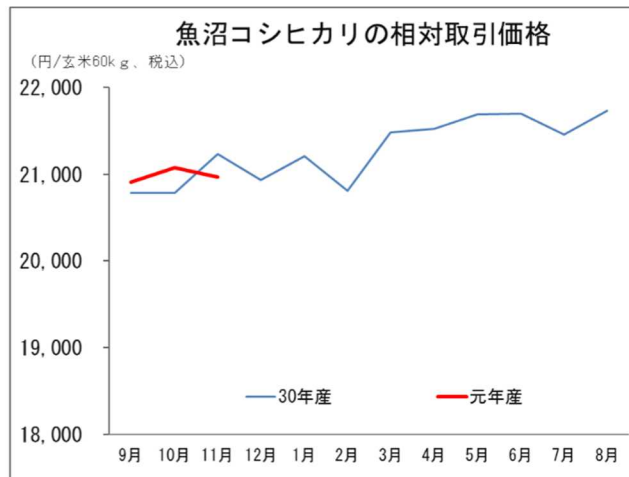
(1) 一般コシヒカリ

11月時点の元年産一般コシヒカリの相対取引価格(1等)は、前月から227円下回り、17,126円(玄米60kg、税込)となった。



(2) 魚沼コシヒカリ

11月時点の元年産魚沼コシヒカリの相対取引価格(1等)は、前月を114円下回り、20,971円(玄米60kg、税込)となった。



相対取引価格の推移

(単位:円)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般 コシヒカリ	29年産	16,906	16,798	16,846	16,907	16,982	16,980	16,974	17,030	16,801	16,801	16,784	16,890
	30年産	17,081	17,106	16,975	17,021	17,090	17,109	17,027	16,944	16,929	16,718	17,130	17,020
	元年産	17,471	17,353	17,126									
魚沼 コシヒカリ	29年産	20,600	20,703	20,700	20,578	20,640	20,767	20,902	20,956	20,987	21,072	20,945	21,010
	30年産	20,791	20,794	21,241	20,939	21,210	20,819	21,482	21,528	21,695	21,699	21,458	21,735
	元年産	20,919	21,085	20,971									
岩船 コシヒカリ	29年産	17,289	17,429	17,479	17,339	17,452	17,352	17,455	-	-	-	-	-
	30年産	17,442	17,474	17,478	17,454	17,493	17,423	17,445	-	-	-	18,337	-
	元年産	17,811	17,917	17,962									
佐渡 コシヒカリ	29年産	17,311	17,325	17,415	17,340	17,362	17,486	17,484	17,665	-	-	-	17,362
	30年産	17,487	17,830	17,476	17,493	17,420	17,349	17,458	-	17,510	-	17,743	-
	元年産	17,834	17,922	17,932									

(資料)農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

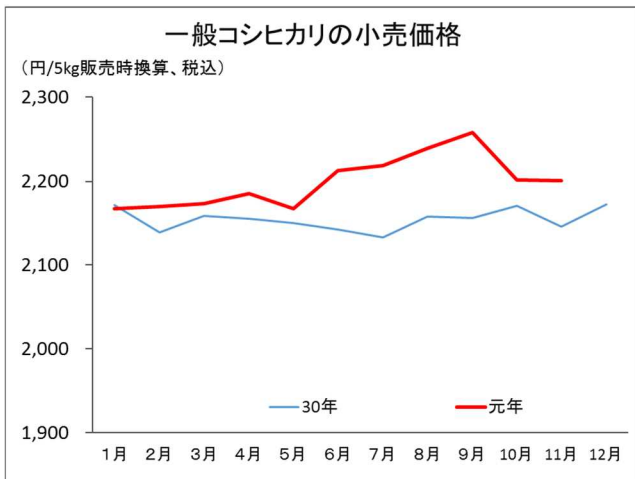
(注)「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの、または、当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表が行われないもの。



**小売価格**  
(POSデータ)

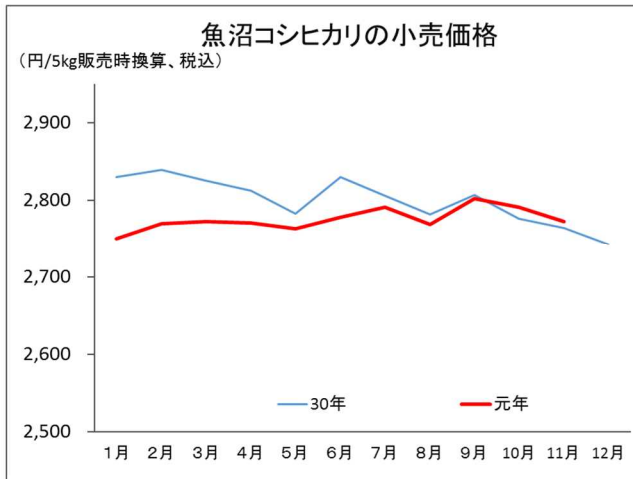
(1) 一般コシヒカリ

11月時点の一般コシヒカリの小売価格は、前年産を上回っているものの、前月▲1円の2,201円(5kg袋販売時換算、税込)となった。



(2) 魚沼コシヒカリ

11月時点の魚沼コシヒカリの小売価格は、前月▲19円の2,772円(5kg袋販売時換算、税込)となった。



小売価格(POSデータ)の推移

(単位:円)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般コシヒカリ	29年	2,141	2,114	2,105	2,128	2,086	2,062	2,023	2,057	2,045	2,161	2,161	2,165
	30年	2,172	2,140	2,159	2,156	2,151	2,143	2,134	2,158	2,157	2,171	2,146	2,173
	元年	2,168	2,170	2,174	2,186	2,168	2,213	2,219	2,239	2,258	2,202	2,201	
魚沼コシヒカリ	29年	2,835	2,837	2,825	2,764	2,777	2,713	2,616	2,689	2,644	2,777	2,826	2,840
	30年	2,830	2,839	2,825	2,812	2,783	2,830	2,806	2,782	2,807	2,776	2,764	2,743
	元年	2,750	2,770	2,772	2,771	2,763	2,778	2,791	2,769	2,802	2,791	2,772	
岩船コシヒカリ	29年	2,114	2,024	2,031	2,123	2,210	2,230	2,188	2,163	2,181	2,158	2,200	2,224
	30年	2,270	2,292	2,275	2,221	2,264	2,279	2,275	2,254	2,229	2,231	2,254	2,224
	元年	2,244	2,298	2,235	2,276	2,254	2,233	2,199	2,231	2,265	2,220	2,246	
佐渡コシヒカリ	29年	2,121	2,158	2,149	1,983	2,151	2,015	2,141	2,127	2,169	2,174	2,259	2,266
	30年	2,282	2,110	2,243	2,282	2,280	2,260	2,246	2,245	2,231	2,209	2,215	2,246
	元年	2,262	2,289	2,309	2,305	2,308	2,306	2,295	2,280	2,298	2,232	2,218	

資料:農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

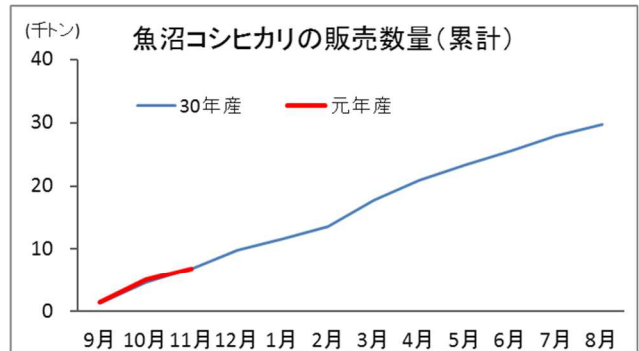
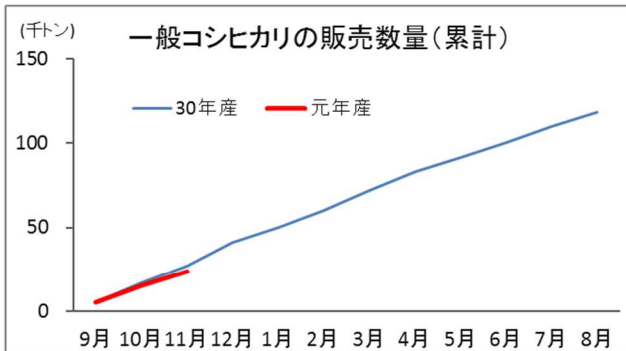
発行元:新潟県農林水産部農産園芸課

TEL:025-280-5295

URL:https://www.niigatamai.info

# 資料編

## 販売状況



### 販売数量(累計)の推移

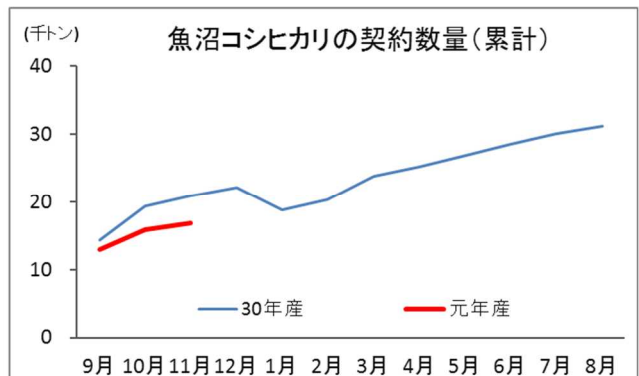
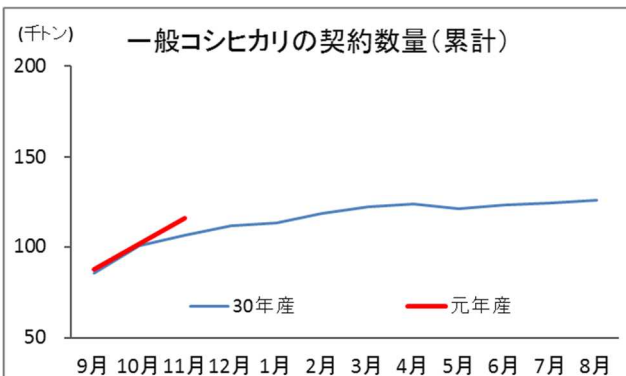
(玄米千トン)

産地・年産	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
一般コシヒカリ	29年産	5.1	14.6	23.5	35.2	43.3	55.3	68.1	81.2	94.6	107.6	121.4	132.6
	30年産	5.3	16.9	27.2	40.9	50.0	59.9	71.7	83.3	91.8	100.3	110.1	118.2
	元年産	5.5	15.2	23.8									
魚沼コシヒカリ	29年産	1.1	4.4	6.5	9.4	11.2	13.1	15.2	17.7	19.8	22.3	25.2	27.4
	30年産	1.3	4.6	6.8	9.8	11.7	13.6	17.8	20.9	23.3	25.6	27.9	29.7
	元年産	1.5	5.0	6.9									
岩船コシヒカリ	29年産	0.2	1.4	2.4	3.1	3.9	4.8	5.9	6.9	7.9	8.7	9.6	10.6
	30年産	0.1	1.5	2.4	3.2	3.7	4.7	5.6	6.9	7.7	8.4	9.5	10.2
	元年産	0.2	1.4	2.0									
佐渡コシヒカリ	29年産	0.4	1.9	2.9	4.0	5.1	6.0	7.1	8.1	9.4	10.3	11.7	13.0
	30年産	0.2	2.2	3.2	4.3	5.5	6.3	7.2	8.1	9.0	9.7	10.5	11.1
	元年産	0.4	2.3	3.2									

(資料)農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)年度毎に調査対象者が異なる可能性がある

## 契約状況



### 契約数量(累計)の推移

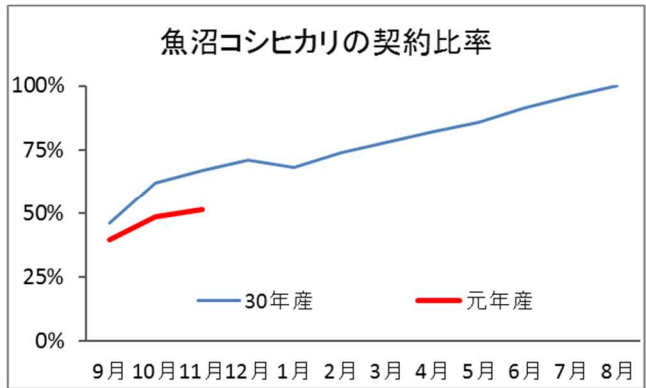
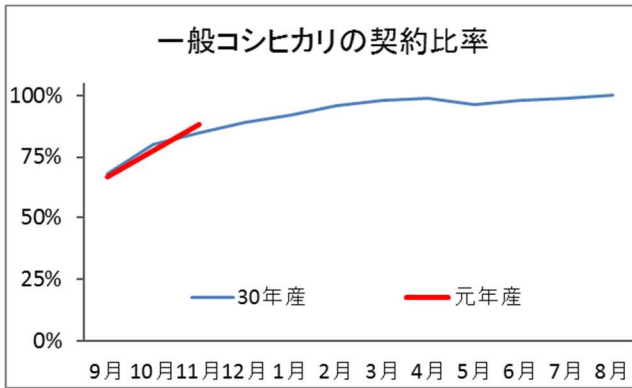
(玄米千トン)

産地・年産	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
一般コシヒカリ	28年産	94.8	100.7	103.8	112.0	116.6	127.6	143.8	152.7	157.0	158.4	159.8	162.2
	29年産	92.5	103.8	107.3	114.2	117.9	122.6	130.7	134.8	136.4	138.0	139.7	141.1
	30年産	85.7	100.5	106.4	111.5	112.9	118.2	122.0	123.3	120.9	122.8	124.1	125.5
	元年産	87.7	101.9	115.9									
魚沼コシヒカリ	29年産	12.7	19.5	20.9	22.6	23.7	24.4	25.1	25.7	26.4	27.3	28.4	29.1
	30年産	14.4	19.3	20.9	22.1	18.8	20.3	23.8	25.2	26.8	28.5	30.0	31.1
	元年産	13.0	15.9	16.9									
岩船コシヒカリ	29年産	10.1	10.1	10.1	10.3	10.4	10.7	11.2	11.2	11.2	11.2	11.2	11.2
	30年産	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.2	10.4	10.4	10.4	10.4	10.6
	元年産	9.4	9.5	9.5									
佐渡コシヒカリ	29年産	11.9	12.0	12.1	12.2	12.4	12.9	13.2	13.5	13.5	13.5	13.5	13.6
	30年産	11.2	11.4	11.4	11.7	11.7	11.8	12.1	11.4	11.7	11.7	11.7	11.8
	元年産	10.9	11.1	11.3									

(資料)農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)年度毎に調査対象者が異なる可能性がある

## 契約比率



### 契約比率の推移

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般 コシヒカリ	29年産	65%	73%	76%	81%	83%	87%	92%	95%	96%	98%	99%	100%
	30年産	68%	80%	85%	89%	92%	96%	98%	99%	97%	98%	99%	100%
	元年産	67%	78%	88%									
魚沼 コシヒカリ	29年産	43%	66%	71%	76%	80%	82%	85%	87%	89%	92%	96%	98%
	30年産	46%	62%	67%	71%	68%	74%	78%	82%	86%	91%	96%	100%
	元年産	40%	48%	52%									
岩船 コシヒカリ	29年産	90%	91%	90%	92%	93%	96%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	30年産	107%	107%	107%	107%	107%	107%	107%	101%	100%	100%	99%	102%
	元年産	75%	75%	75%									
佐渡 コシヒカリ	29年産	88%	88%	89%	90%	91%	95%	97%	99%	99%	99%	99%	100%
	30年産	94%	96%	96%	98%	98%	99%	101%	95%	98%	98%	98%	99%
	元年産	76%	77%	78%									

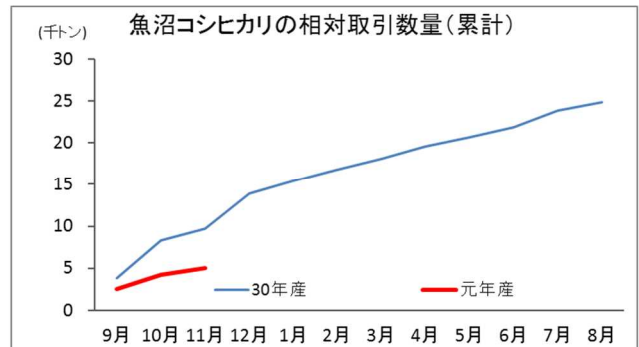
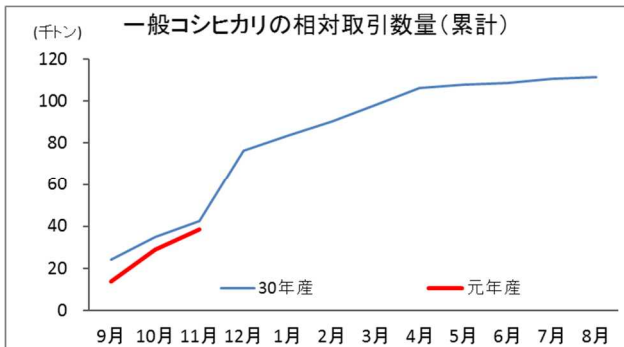
(資料)農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)平成29年産は、各月末時点の販売数量を翌年8月末の集荷量で除して算出。

30年産12月以前は国による比率算出が公表されなかったため、直近月の集荷量で除して算出。

元年産は各月末時点の販売数量を直近月の集荷量で除して算出しているため、今後集荷量の増加に伴い比率が変動する可能性がある。

## 相対取引数量



### 相対取引数量(累計)の推移

(玄米トン)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般 コシヒカリ	29年産	26,315	40,574	53,260	65,185	85,828	94,165	109,598	118,046	122,441	123,694	124,707	125,309
	30年産	24,056	34,805	42,333	76,176	83,475	90,377	98,290	106,259	107,846	108,637	110,769	111,440
	元年産	13,585	28,777	38,610									
魚沼 コシヒカリ	29年産	6,213	9,516	12,708	15,378	18,212	20,077	21,785	23,177	24,067	25,454	26,820	27,785
	30年産	3,859	8,262	9,672	13,887	15,353	16,786	18,050	19,543	20,650	21,836	23,879	24,848
	元年産	2,485	4,245	5,048									
岩船 コシヒカリ	29年産	5,843	6,192	6,777	8,030	8,604	9,935	11,225	11,225	11,225	11,225	11,225	11,225
	30年産	4,244	5,391	5,932	8,509	8,762	9,678	10,833	10,833	10,833	10,833	10,833	10,833
	元年産	2,285	2,897	3,292									
佐渡 コシヒカリ	29年産	3,789	5,401	6,211	6,948	10,956	11,973	12,945	13,236	13,236	13,236	13,236	13,370
	30年産	3,682	4,782	5,809	8,111	8,749	9,391	10,549	10,549	10,549	10,549	10,549	10,549
	元年産	2,224	3,752	4,330									

(資料)農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注1)年度毎に調査対象者が異なる可能性がある

(注2)相対取引契約がなかった又は相対取引量が100トン未満であり、価格の公表が行われなかった月については、前月と同じ数量を記載した。